

高源寺だより

発行所
静岡市清水区高橋2丁目7-4
TEL(366) 2410
FAX(366) 2681

坐禅会

毎月第1・第2日曜日
6時開始。
(6月～9月は6時
開始です)

ご詠歌(無相教会)

花園流のご詠歌で
す。毎月3回練習。
年1回大会に出場し
ます。

五日講

たのしい集いです。
読経、おはなし、など。
毎月5日の午前10時。

写経会

毎月8日9時半読経
後、般若心経を书写
し納めます。

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/kougenji/>

静岡 高源寺 検索

新年のご挨拶

本年は十二支中第五位辰年に当たります。辰は龍に当てられ、龍は四霊獣の一で想像上の動物です。鱗や角、鋭い爪を持ち中国では王者に関する呼称に用いられ、龍顔龍床等の語があります。仏教では護法の霊獣として尊敬されています。春三月天に登り秋には深淵に潜むとされ、勢いのよい鯉が険しい滝を登ると龍と化して昇天するといわれます。登竜門の故事はこれに由来します。

昨年は東日本大震災・福島原発事故・台風と災害のとても多い年でした。とりわけてその被災地の再興と、被災された人々が悲痛から立ち上がり、再生の道を進められることを心より祈るばかりです。

本年は龍の年、昇竜の勢いにあやかりたいものです。新年に当たり、坂村真民先生の素晴らしい詩があります。下に掲げますので読んで下さい。

鳥は飛ばねばならぬ

坂村真民

鳥は飛ばねばならぬ

人は生きねばならぬ

怒濤の海を

飛びゆく鳥のように

混沌の世を生きねばならぬ

鳥は本能的に

暗黒を突破すれば

光明の島に着くことを知っている

そのような人も

一寸先は闇ではなく

光であることを知らねばならぬ

新しい年を迎えた日の朝

わたしに与えられた命題

鳥は飛ばねばならぬ

人は生きねばならぬ

頌喜



前天龍寺派管長 平田精耕

謹んで
新春のお喜びを
申し上げます



住職 守永宗寛
副住職 守永俊光
寺族一同

四国巡礼記

四国巡礼の旅も（三年計画）今年で第二回目となり初秋の薫りを味わいながら十月に事故もなく楽しく行って参りました。（参加者十九名）

今回も昨年同様眠気も覚めやらぬ早朝JR清水駅を出発し新幹線バスにて瀬戸大橋を渡り徳島、高知自動車道を経て第二十九番国分寺へ向かい、午後十二時五分到着。走行距離片道一〇六五kmの旅である。遍路道だけでも歩き遍路したら約十一日間位はかかるでしょう。（二十九番〜四十三番まで）歩き遍路時代から一世紀余り今は文明の世の中、僅か四日間ですら往復できる。年老いた者には有り難い世の中である。如何に歩き遍路が大変か想像を絶する思いがします。

今年も弘法大師と「同行二人旅」旅の始まりである。今回は寺から寺の距離間が長い所が多く、廻る寺数も昨年の半数であったが四国の西南端大自然に恵まれた美しい海岸沿の景勝地を堪能しながら廻るコース、

中でも坂本龍馬の銅像や桂浜の景観は素晴らしく美しい場所であり、正に仏道の理想の勝地では無いでしょうか。美しい自然を拝すると一つの煩惱が消え去る地にも見えた。

人間には八十八の煩惱があり霊場八十八ヶ所廻る事によって煩惱を一つ一つ取り除き願いが叶うと伝えられています。心と身と体を磨き此の世に生きている喜びと供に自分自身を見つめ直し、素直な気持ちで、向かい合い、人生の潤いを求めながら廻る巡礼であった。今回の旅は巡礼と観光が共存し合い、現世と仏が交差しながら味深い深い解放感あふれる楽しい旅でもありました。

昭和初期の頃までは「辺土」と呼ばれ交通事情も悪く今日のように手軽には行けなかった。今ではその心理的抵抗は希薄になっているが、何処で倒れても大師様のもとへ行ける様にと死装束であり、その促え方も明るいイメージではなかった。だが時代と供に観光化への道を歩み始め、今日では四国観光の一途になり、歴史の町から観光の町へと歩み、歴史の面影を偲びながら白装束に、草鞋金剛杖と先祖代々から伝わる歩き遍路も今は車遍路の時代となりました。

大切な歴史の姿が（大師遍路像）徐々に目の前から消え去り、文明時代とは言え、



大切な姿こそ何時までも後世に引き継ぎ遺したいものである。

旅の終わりに、亡き母の念願でもあった四国巡礼も叶う事なく、此の世を去った母の念願を果たすのも子の務めと思い、遍路に参加させて戴き納経掛軸を造り巡礼のお土産と思ひ仏前に備え供養することが出来るのも皆様と供に歩いた巡礼のお陰です。人は皆四苦を抱え此の世に生きている。今回の旅はその四苦からも解き離すような、素晴らしい巡礼、全てを忘れさせてくれる旅でもあり、今一度生きている喜びを大切に生かし、仏心を少しでも学び余生を楽しく送りたい。人に喜び幸せを与える此の様な旅にぜひ多くの人が参加する事を願う者である。

最後に四国は歴史と文化の町であり遺跡史跡が多く残され又遍路八十八ヶ寺も四国の大きな一つのシンボルであり、次の世代に遺す大切な遺跡ではないでしょうか。
高源寺様に感謝いたします。



お施餓鬼会の報告

毎年七月五日にお施餓鬼会の法要を営んでいます。この法要の案内は、高源寺だよりお盆号でお知らせしています。この法要には近隣寺院から法縁寺院まで、二十数名の和尚さんにお願ひしております。特に新盆を迎えられる各家にお知らせして、御霊位の供養をし、新たに先祖様としてお祀りします。

左は昨年の法要の写真です。



高源寺からの

お知らせ

昨年十一月二十五日に高源寺の寺族と親戚になる北矢部新定院の閑栖(隠居)和尚が亡くなりました。享年九十六才でした。高源寺の先々代、弘道和尚のころから長く壇信徒の方に御詠歌を教えていただきました。

高源寺の御詠歌の歴史は五十年以上になります。昭和三十年代に支部が編成されて以来新定院閑栖和尚につき、現在は新定院の御住職に教わっています。



▶ 在りし日の先代了俊和尚(右)と新定院閑栖和尚(左)

達磨忌報恩法要と 壇信徒先祖供養

昨年十一月五日に厳修しました。

お天気に恵まれて沢山の方が参拝されました。今回は、健康のお話しとして、一般体操指導員の加藤智代女史、栄養士の豊島智江女史にお話ししました。「健口体操」として、お口の機能を低下させないために手軽に行える体操や、体に良い食事のとり方等のお話しでした。



平成二十四年 前半期の行事予定

- 二月二十日 梶原一族供養会
- 二月十五日 五日講涅槃会
- 三月十七日、
二十三日 春彼岸(護持会費納入)
- 四月 五日 花まつり法話会
- 四月 八日 灌仏会、写経会(納経)
- 五月二十五日 静岡東教区奉詠大会

法事年回表

平成24年

	(没年)
1周忌	平成23年
3回忌	平成22年
7回忌	平成18年
13回忌	平成12年
17回忌	平成 8年
25回忌	昭和63年
33回忌	昭和55年
50回忌	昭和38年

◆清掃奉仕◆

十一月一日に、御詠歌会員と五日講に参加している有志の方、二十数名が大掃除をしてくださいました。本堂、会館等大変きれいになりました。又、男性の方も参加されて墓地の垣根を刈込んでくださいました。

